

都市部における河川整備 及び海岸整備について

平成25年5月7日

二級河川岩田川2. 0k付近より河口を望む

河川整備・海岸整備の必要性

東日本大震災では地震、津波により海岸、河川施設が壊滅的な被害を受け、また、近年の台風等による局部的な豪雨は予測の範囲を遥かに超える

津市においては、過去に何度も洪水による被害を受けており、地震・津波による浸水被害発生リスクも非常に高い

これまでの大震災等の経験を踏まえ、近い将来発生が懸念される「南海トラフ巨大地震」に備え、河川・海岸堤防の命と暮らしを守るインフラ再構築や頻発する水害対策に重要な河川維持・改修が事前の防災・減災対策となる

三重県に対して要望

三重県に対する要望の内容

要望5項目

① 河川堤防の老朽化対策

② 河川堆積土砂のしゅんせつ

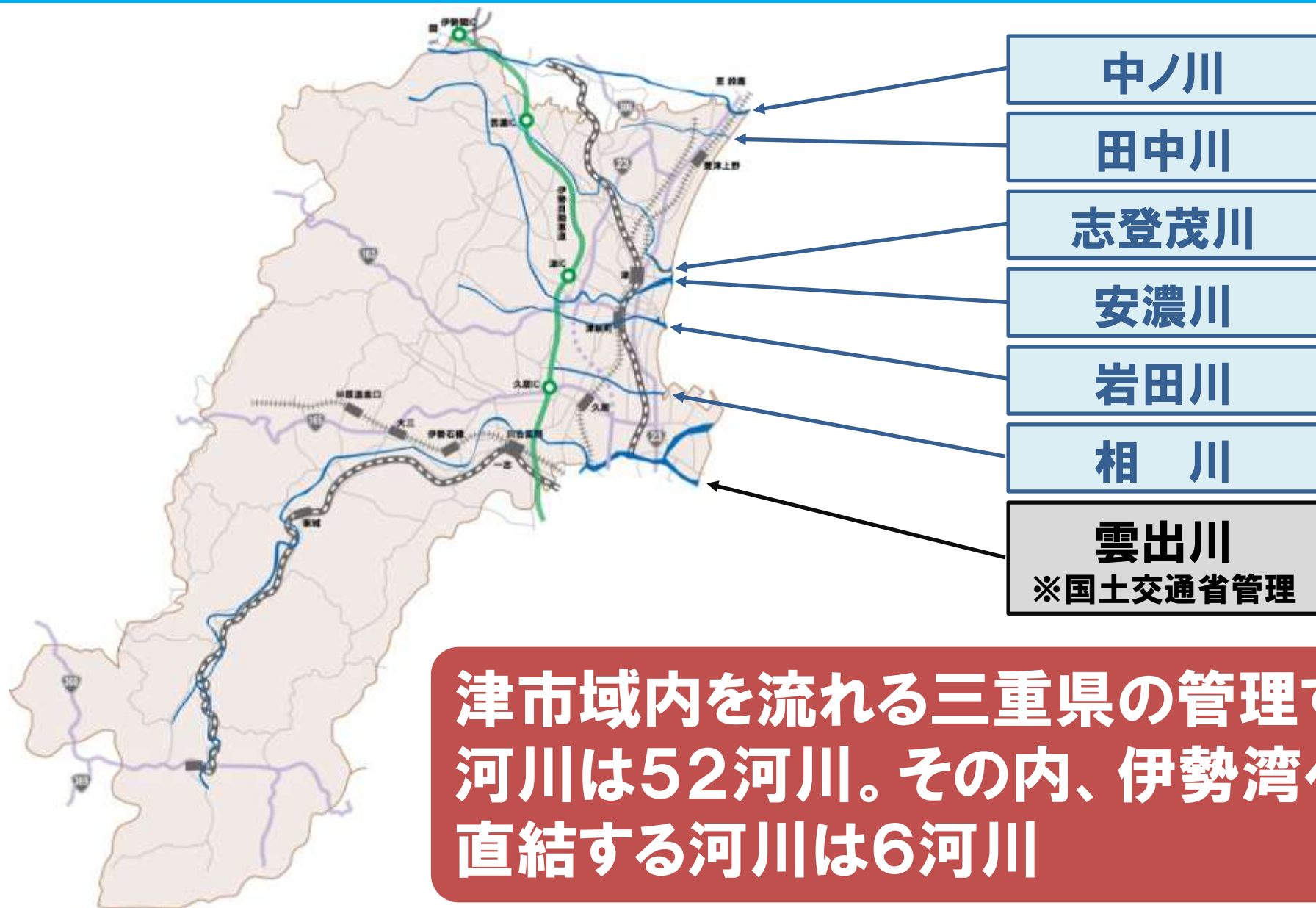
③ 河川堤防の高さの確保

④ 河川改修工事の早期完成

⑤ 白塚・河芸地域海岸堤防の早期改修

▶▶▶ 定例記者会見後、津市長から三重県知事あての要望書を青木副市長が津建設事務所 中瀬所長 に提出

津市域の県管理河川



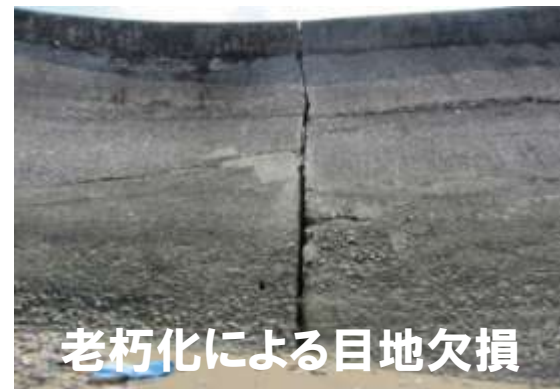
津市域内を流れる三重県の管理する河川は52河川。その内、伊勢湾へ直結する河川は6河川

① 河川堤防の老朽化対策

相川(左岸) 1.0k付近



岩田川(右岸) 1.0k付近



相川(左岸) 0.8k付近



岩田川(左岸) 2.0k付近



現在の堤防は昭和34年の台風7号や同年の伊勢湾台風により甚大な被害を受け、河口部においては防潮堤が築かれたもので経年による老朽化が激しい

② 河川堆積土砂のしゅんせつ

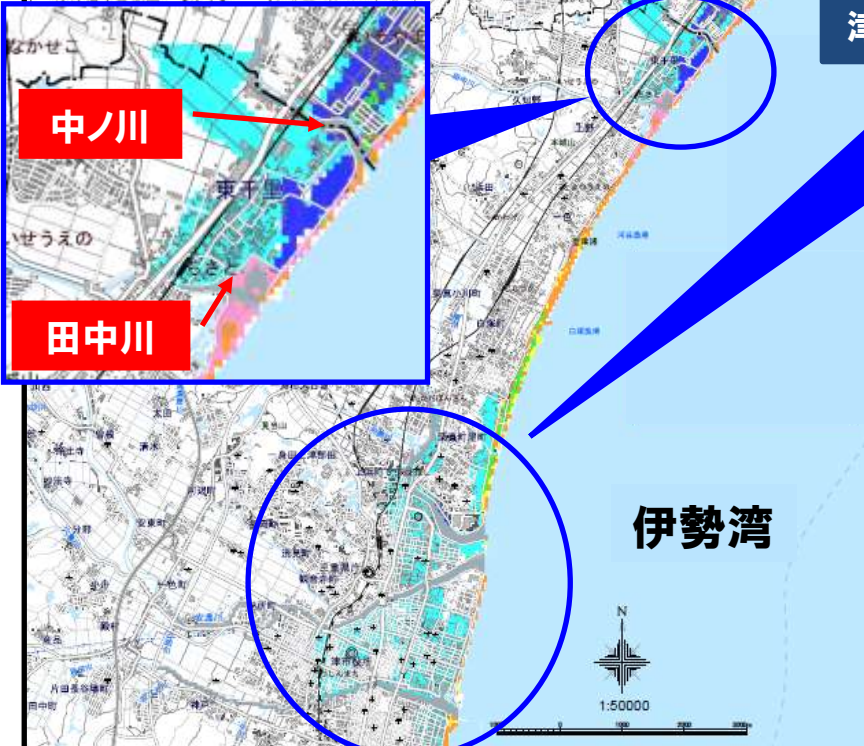
津市域の河川は土砂の堆積により雑木や立木などが繁茂し、大雨による出水時においては、水の流れを阻害している状況であるため計画的かつ、適切な維持管理が必要



- 平成24年度に襲来した台風17号による家屋等の浸水被害を受け、三重県及び三重県議会議員への要望を行い、補正予算等により、現在、約9万立方メートルのしゅんせつを実施中
- 今後も継続的に適切な維持管理が行われるよう、三重県と連携して、減災対策に取り組む

③ 河川堤防の高さの確保(1)

津波浸水予測図(三重県作成 平成23年度版) 防潮堤等の施設を考慮した場合



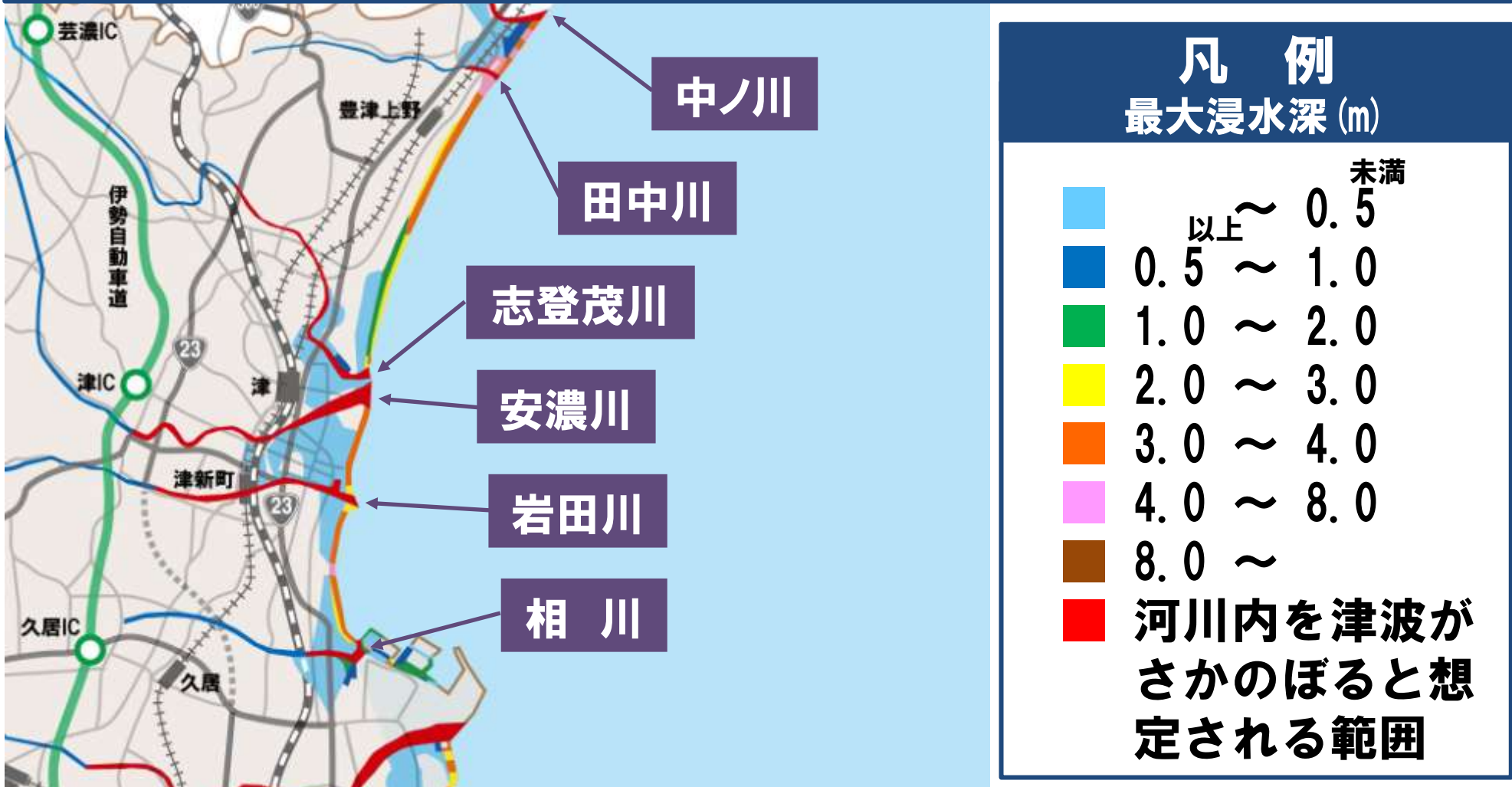
凡 例	
最大浸水深(m)	未満
~ 0.5	
0.5 ~ 1.0	以上
1.0 ~ 2.0	
2.0 ~ 3.0	
3.0 ~ 4.0	
4.0 ~ 8.0	
8.0 ~	
河川内を津波が さかのぼると想 定される範囲	



津波浸水予測図から津波の襲来により浸水エリアを確認すると河川沿線に50cm未満の浸水箇所があり、高潮・津波に対応した堤防高が必要

③ 河川堤防の高さの確保 (2)

津波浸水予測図(三重県作成 平成23年度版) 防潮堤等の施設を考慮した場合



この図は三重県が作成した津波浸水予測図 (平成23年度版)をイメージ化したものです

④ 河川改修工事の早期完成

相川 0.6k付近



引堤により完成した
河口部(右岸)

相川 1.2k付近



流下能力不足や事業進捗に
ネックとなる橋梁

現在事業中の4河川

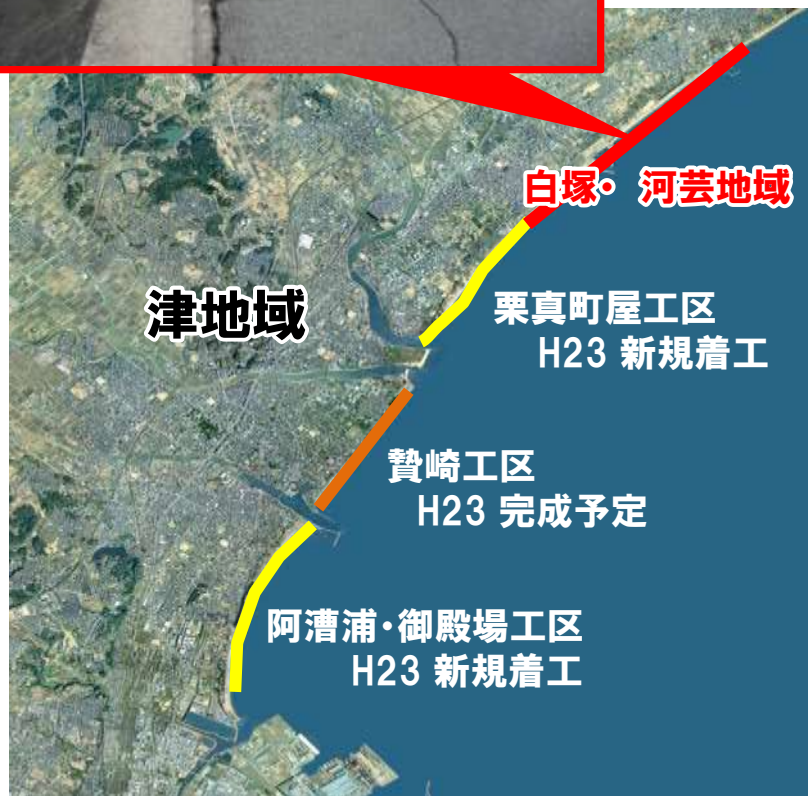
相川	ひきてい 引堤
岩田川	ちくていごが 築堤護岸
安濃川	かどうくさく 河道掘削
志登茂川	ひきてい 引堤

●津市域の河川では、洪水被害の頻発発生、流下能力の小さい区間の存在、ネック部となる橋梁など、現況河道に課題が残されている

●現在、相川、岩田川、安濃川、志登茂川において河川改修工事が実施されているが、流域内の市街化の進展等により事業費が膨大となり事業進捗に支障をきたしている

⑤ 白塚・河芸地域海岸堤防の早期改修

老朽化、高さ不足が懸念される海岸堤防



三重県により行われた老朽化調査の結果により、空洞化が確認された河芸町上野地区、白塚地区の2箇所について、平成24年度に緊急対策工事を三重県が実施

現堤防は、築堤後50年以上が経過し、ひび割れなどの老朽化や海岸浸食が進むとともに、液状化の可能性も懸念され、また、南海トラフ巨大地震の発生による津波の影響も危惧

白塚・河芸地域においても、抜本的な海岸堤防の早期改修が必要